
日本図書館協会 第38回 図書館建築賞 (資料)

〔講評〕

受賞館：オーテピア高知図書館（高知県立図書館・高知市立市民図書館本館）（高知県）
図書館建築名：オーテピア 高知新図書館等複合施設

オーテピア高知図書館は、高知県立図書館と高知市民図書館を融合した図書館である。県と市が1つの施設の中で、それぞれの役割を明確にしつつ相互に連携した総合的サービスを展開している。利用者は、県市の図書館資料を区別なく利用することができる。このように県市の図書館を一体的に整備する取り組みは日本初である。

「高知声と点字の図書館」、 「高知みらい科学館」を併設しており、総延べ床面積 23,760 m²という中四国最大規模の複合施設となっている。高知城に近い一等地、城へ向かう追手筋に面して計画され、すぐ近くには、観光客も訪れるひろめ市場があり、周辺には学校施設もある。さらに周囲の商業店舗のアーケードからオーテピアまでを直結する遊歩道も併せて設けられ、県民・市民が日常的に行き交う場所に建設された。

建設計画にあたり、県立図書館と市立図書館の共通業務を両館が連携して実施するための基本方針及び役割分担を定めた連携協約を結んでいる。基本構想策定に至るまで、専門家のみならず、パブリックコメント等を通じて県民市民の間でも熱心に意見交換がなされ、図書館そのもののあり方に関心が集まったことは、特筆すべきことであった。まちの賑わいとつながる情報拠点として利便性を考慮した計画の下、県市両館の職員による安定した質の高いサービスの提供を可能としており、災害時にも安全な場所として、また、日常的な居場所となる図書館として建築賞に選定した。



▲日曜市も開催される歴史ある中心市街地の街並みにリズム感を生み出す『リーフルーバー』
（オーテピア高知図書館）



▲内観：幹としての『まんなか書庫』から広がる明るく開放的な木の枝としての開架閲覧室
（オーテピア高知図書館）

日本図書館協会 第38回 図書館建築賞 (資料)

〔講評〕

受賞館：長浜市立長浜図書館（滋賀県）
図書館建築名：ながはま文化福祉プラザ

新しい長浜図書館は、複合施設「ながはま文化福祉プラザ」の主要施設であり、市内6館ある図書館の中央館の役割も強化された。各館の床面積合計が8,859㎡、蔵書合計が92.4万冊（『日本の図書館2021』より）となり、充足の度合は高い。

この複合施設が高く評価された点は、基礎的要素として、関連施設との関係等、ロケーションがよいことがあげられる。そして特筆されることは、図書館と市民活動施設等が、ボーダレスにつながる施設が実現し、建設プロセスにおいて、市民と共に熱心に取り組んだ関係者の努力である。

複合施設のメリットを生かそうとする図書館が増え、さらに垣根のない一体的な施設づくりへの試みも見られるようになったが、ソフト・ハード両面でハードルは高い。長浜図書館は、それを具現化するために、計画当初から市民・行政・関係者が垣根をなくして協力・協働し、時間をかけてそれを実現した。複合型図書館の先進事例として完成度が高いと評価し、建築賞に選定した。



▲商工会議所会館（右）と軒高のデザインコードを揃えることで新たな街並みを創出する『さざなみタウン』（長浜市立長浜図書館）



▲人と本が図書館とまちづくりセンターを自由に動く新しい市民の交流拠点としての『フリースペース』（長浜市立長浜図書館）